

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	15-082	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Relationship of Age for Grade and Pubertal Stage to Early Initiation of Substance Use. 薬物乱用の開始と学年もしくは二次性徴のステージとの関連		
執筆者		
Dudovitz RN, Chung PJ, Elliott MN, Davies SL, Tortolero S, Baumler E, Banspach SW, Schuster MA.		
掲載誌		
Prev Chronic Dis. 2015 Nov 19;12:E203. doi: 10.5888/pcd12.150234.		
キーワード		PMID
思春期、学年、年齢、薬物乱用、アルコール、たばこ、薬物		26583575
要 旨		
目的： 薬物乱用を含む危険な健康行動は、同学年の学生の平均年齢より年上の学生が多いことが示唆されているが、ほとんどの研究では同学年の学生よりも年上である理由（留年または入学遅延）や二次性徴のステージを考慮していない。そこで年齢、学年、二次性徴のステージは薬物乱用と関連するかを検討した。		
方法： 2004年から2006年にアラバマ州、カリフォルニア州、テキサス州の5,147人の5年生の児童とその養育者を調査した横断研究 Healthy Passages Wave I のデータを用いた。二次性徴のステージはタナーのステージ図から児童に最も近い段階を選ばせて評価した。ロジスティック回帰分析にて、同学年の児童の平均年齢より年上であること、留年、入学遅延、二次性徴のステージが、薬物乱用(たばこ、アルコール、他の薬物)に関連しているかを検討した。		
結果： 研究対象者の17%は少なくとも1回の薬物乱用を報告した。男児では、思春期の段階が進んでいるとたばこ、アルコール、他の薬物を乱用するオッズが上昇した。一方、入学遅延は、薬物乱用のオッズは低かった。女児では、思春期の段階が進んでいると、アルコール使用のオッズのみが上昇し、入学遅延は薬物乱用と関連していなかった。同学年の児童の平均年齢より年上であることや留年は、潜在的交絡因子を調整後、薬物乱用と独立して関連していた。		
結論： 思春期の段階が進んでいることは、同学年の児童の平均年齢より年上であることよりも薬物乱用の重要な危険因子かもしれない。		